

川崎地域 地域医療構想推進に向けた勉強会（意見交換会）開催結果概要

1 開催概要

日時 平成30年7月25日（水）15時から16時30分

会場 川崎市医師会館3階ホール2、3

2 議題

- (1) 神奈川県地域医療構想を踏まえた病床機能の確保及び連携
- (2) 公的医療機関等の今後の方針について

3 出席者

- (1) 医療機関等 21病院（48人）

※川崎市病院事業管理者、川崎市医師会長（途中参加）含む。

※医療圏内の全病院数 39病院

- (2) 行政 神奈川県 2人、川崎市健康福祉局保健医療政策室 4人、
川崎市病院局 1人

※詳細は別紙「30年7月25日地域医療構想推進に向けた勉強会出席者名簿」参照

4 主な意見等

会長が開会を宣し、15時に開会し、病院協会理事の司会により進行。まず、「神奈川県地域医療構想を踏まえた病床機能の確保及び連携」を川崎市保健医療政策室課長が説明し、引き続き2025プラン策定対象病院にコメントを求め、意見交換や質疑があった。主なものは、次のとおり。

(1) 2025プラン関連

(出席者1) 病床機能報告の病床機能について、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の各々の定義が明確になっていない。DPCのⅡ超えとか定量的な基準がないと論議してもほとんど意味がないと思う。

(出席者1) 各々の病院が自分の所の機能を認識して、それを公開していくという事があってしかるべき。

(神奈川県医療課) 各病院から何らかの形で、今後こういう事を考えているということを出してもらおう事を考えており、そういったものも見ながら各地域で皆さん集まっての話し合いなどで進めていければと考えている。

(出席者2) 大学病院は、地域医療構想の病床数よりはちょっとゆとりを持たせていただかないと医師の養成という社会的ミッションを果たすことは厳しい。

(出席者3) 公立病院が先に役割を決めて、残ったものを他の病院がやっていくという事ではないとされたのは有難い。

(出席者3) 地域包括ケア病床は中小病院にとって非常に重要なものであり、公的な病院がそれを作るということはいかがなものかと思えます。

(出席者4) 一病院は、民間が担えない不採算部門を第一に行っており、災害医療、救急医療、特に三次救急、周産期・小児医療に取り組んでいる。また、三次救急の改善を中心とした再編整備計画を進めている。もうひとつの病院では、川崎市が目指す地域包括ケアシステムの構築に寄与するよう、在宅医療支援を行っていく形を考えている。

(川崎市) 先ずは情報共有をするため、そのツールとして先ずは2025プランが出ていて、更に、神奈川県から説明のあったその他の病院が将来どういう事を考えているかの調査を秋以降に行う、そうして情報をすべて持った後で、そこから論議をスタートしましょう。

(2) その他の意見

(神奈川県医療課) 第1回調整会議では地域の現状の共有をしていくこと、公的病院の2025プランについても意見交換をしていくこと、平成29年7月時点の病床機能報告の情報を基に情報共有をしていくこと、基金に関する要望・意見を聞くことなどを予定している。

(出席者5) 前回の地域医療調整会議で病床は毎年見直すこととなったが川崎北部は1年たってどうなったか、どれくらい過剰と分かると助かる。

(神奈川県医療課) 毎年、最新の人口をもとに再積算し、検討していくことになっていて、まだ最新の人口は出ていないが、川崎は南北とも何百床か過剰なので、1年では、基準病床を見直すような大幅な増にはならないと思う。基準病床の見直しについては、2回目の調整会議でご検討いただくことになる。

(川崎市) 将来の医療需要への対応は、できる限り既存の医療資源を有効活用して対応し、それでも足りない場合は量の増加をしましょうという事で病院協会とも合意したところである。

(座長) それぞれの医療機関が自分の目先のことにがむしゃらに取り組んでいくのではなく、周りの医療機関を見ながら病診・病病で連携して取り組んでいく時代になっていると、各自ご理解をお願いします。